



パシオン通信 8月号

滋賀県探訪 ～浅井長政とひこにゃん(前編)～

システム開発2部 O・M

7月1日の日曜日の夜、私はちょっとした私用で名古屋にいた。名古屋に行くと思った時の計画段階で、無理をすればその日の夜遅くに帰宅できたのだが、夜遅く帰って次の日仕事っていうのはつらい。ということで、月曜日に年休を取って日曜日は名古屋に1泊することにした。そう決めた後、はたと気づいてしまった。名古屋から滋賀県って結構近いんだなあ。そういや滋賀県ってまともに観光したことないなあ。それに北近江は、かつて戦国時代に浅井長政が治めていた地域だなあということに。

今回の旅行計画立てた頃のちょっと前、とある浅井長政が主役の舞台を観劇し、浅井長政という人物に興味を持ち始めていた時期だったため、じゃあ浅井長政の地元にも行ってみようかということに。浅井長政について書くところちょっと長くなるので、「浅井長政」で検索を。

(ちなみに読み方は、「あさいながまさ」ではなく「あざいながまさ」と濁る説が有力)

7月2日月曜日。特に寝坊もせず起きた。

しかし出発の支度の時間配分間違えて、当初乗る予定だった新快速に乗り遅れる事態に。仕方なく後続の特急列車に乗ることにしたが、この予定外の出費はちょっと痛い。

自由席特急料金1,180円也



米原で大阪方面から来た新快速に乗り換え。とはいえ米原から先は各駅停車。平日ということもあり、途中駅で大学生が大勢降りてから車内はガラガラに。で、やって来たのは近江塩津駅。なぜ近江塩津駅に来たかということ、米原からここまでの区間は乗ったことが無く、乗り鉄の塗り潰しのため。

近江塩津駅は湖西線と北陸本線の2つの路線が接続する駅なのに、無人駅。周りとはとっても辺鄙。お店も無く、何もすることが無いので、駅舎で30分ほど待ってから折り返しの電車に乗って米原着。

米原からはレンタカーを借りて、いよいよ本日の主目的である浅井長政の歴史探訪の旅へ。とは言っても、米原

原駅から車で30分ほどで小谷城戦国歴史資料館に到着。ここでは、戦国時代に三代に渡って北近江を治めた浅井氏の歴史についての展示や、小谷城跡からの出土品の展示、日本五大山城の一つに数えられる小谷城をテーマ



近江塩津駅の駅舎



約2年ぶりの運転でちょっと緊張



近江塩津駅周辺。お店は1件も見当たらず、とっても辺鄙。



にした展示を見ることができる。(館内は撮影禁止)

平日のお昼頃だったため、他に客はおらず、そういった展示物をゆったり見学することができたのだが、「小谷城跡には山登りの装備で登る事」とか、「熊出没注意、単独での行動は控える事」といった類の気になる文字が。というのもこの後、小谷城跡の山に登ろうかなと考えていたからである。しかも半袖シャツにジーパン、靴はスニーカーですらない普通の私服用の靴という、とても今から山登りするには見えない軽装な出で立ちで。



小谷城歴史戦国資料館

さすがに無理かと半分諦めかけて車に戻ろうとしたとき、資料館のおばちゃんの中から出てきて、小谷城跡のイラストマップを渡された。そして、小谷城跡へは車で途中まで登れて、そこから徒歩15分くらいで本丸跡まで行けるという悪魔のささやきにより、俄然登る気満々に。ここから命がけ(?)の登山が始まる。(つづく)

おまけ：名古屋に来る前日の土曜日の夜は、これまたちょっとした私用で静岡にいて、その日のうちに新幹線のこだまに乗って名古屋に移動したのだが、豊橋到着した時点で、自分の乗っていた車両に乗客が1人もいなくなり、新幹線1両丸ごと貸切状態という、貴重な体験をした。



誰もいない…

目次	
滋賀県探訪 ～浅井長政とひこにゃん(前編)	1
If you love Fulie Stand up!	2~3
新人奮闘記(前編)	4



If you love Fulie Stand up! システム開発2部 W・M

今回は最近、私がかまりつつあるサッカー観戦について書きたいと思います。

横浜には、現在、J1の横浜F・マリノス（以下、横浜FM）、J2の横浜FC、そしてJ3にはY.S.C.Cというチームがあります。通常、ディビジョンが異なる、この3チームがJリーグで試合をすることはないので。以前、横浜FCがJ1に昇格した年が1年間だけあり、この年は、「横浜ダービー」と称し、横浜FC対横浜FM戦があり、白熱しました。サッカーのリーグ戦は通常、ホーム&アウェイという形で同じカードが2試合、組まれます。この年の試合結果は、それぞれのホームゲームについて勝利を収めました。つまり共に1勝1敗でした。この2チームの争い（確執）は遡れば、横浜FMの「F」の文字に象徴されているように、かつての横浜ダービーのもうひとつの主演であった横浜フリューゲルスがJ1に存在していた頃から続いています。横浜フリューゲルスの親会社（スポンサー）の業績不振により横浜マリノスに吸収されるという事件が、かつてありました。横浜フリューゲルスの消滅とともに横浜ダービーも消滅しました。横浜のチーム一本化です。が、横浜フリューゲルス消滅後に誕生したのが横浜FCです。詳細は割愛しますが、横浜FCは消滅に納得できない当時の横浜フリューゲルスのサポーター（以下、サポ）が中心となり活動し、立ち上げたチームです。（現在は、チーム誕生から20年となり、横浜FCからのサポも多く、フリューゲルスに拘りが無い人も多いため）そんな経緯もあり、横浜FCと横浜FMの対戦はサポも含め凄く盛り上がるイベントとなります。

さて、先ほども触れましたが2007年に横浜FCがJ1に在籍した年以外はリーグ戦での対戦はありませんが、もうひとつ、「天皇杯」という大きなカップ戦があります。このカップ戦は今年で98回を数える伝統的な大会です。この天皇杯で2012年に一度、両者は対戦しています。このときは、2-1で横浜FMの勝利となりました。

そして今年、横浜FCサポの間では、天皇杯の組合せが発表になった春先から運がよければ、横浜ダービーが実現されるかもと話題が上がっていました。共に勝ち進めば3回戦で当たります。昨年から本格的に横浜FCのサポになった私は、横浜ダービーをスタジアムで見たことがありません。皆の話を聞いたり、YouTubeを見たりしているうちに横浜ダービーに段々、興味が沸いてきました。そんななか、6月6日の2回戦で横浜FCがカマタマーレ讃岐を、そして横浜FMがFC大阪を下しまし

た。3回戦で横浜ダービーが決定した瞬間です。サッカーを良く一緒に観戦する仲間には、嬉しすぎて眠れない人や、早くも会社に対戦日の休暇申請を出す人や、今年一番の重大事件発生となりました。（笑）いよいよ、2012年以来、6年ぶりの横浜ダービーです。

（さあ、始まるよ〜）

この試合は7月11日、午後7時に始まり午後9時前には、歓喜の渦に包まれているはずだ。

この日、会社で夕方から重要な会議が予定されていた俺は焦った。まさか、ダービー当日に会議とは。キックオフは午後7時、会議終了後に駆けつけるとしても、とても間に合わない。うー、とても辛い。しかし、長くは悩んでられない。

なんとか、会議日程を変更できないだろうかとの出席者のスケジュール表を確認。おっ、社長のスケジュールに他の予定が組まれている。知るか知らずか、ダブルブッキングだ。これはチャンス。会議出席者と調整し、夕方の会議は回避し、午後半休を確定。俺には運が残っている！きっと、試合も勝あぁあつ。



次ページへ続く



前ページより続き

観戦用グッズ（ユニホームとかタオルマフラーとか）を持ち、いざ、決戦の地、ニッパツ三ツ沢球技場へ。通常、スタジアムへ入れるのは試合開始の2時間前だが、この日は、その30分前から、応援席の準備が許された。応援横断幕や大旗やらの準備で忙しい。そして、キックオフ2時間前、一般入場開始。選手のウォーミングアップが始まると応援コールやチャントを両陣営サポが繰り広げる。いよいよ、はじまる、わくわく感が高まる。コールリーダーのもと、ゴール裏では、皆が声を揃え、旗を振る。

（♪三ツ沢、三ツ沢、三ツ沢～、友よ歌え狂え叫べよ～、世界の港を声高らかに俺たちの丘、三ツ沢～♪）

（♪今始まる～歴史塗り替える～、今日この場所で、この空の下、かまわねえ突き進めどこまでも♪）

（♪アーレー、アーレー、俺たち横浜アーレー アーレー、アーレー、俺たち横浜アーレー オーオ♪）

実は、試合を見るのが目的であれば、ゴール裏は向いていない。試合は見にくいし、全力応援の場所なのでゆっくり出来ない。お勧めは、メインかバックスタンド。

試合が始まるとゆっくりビールが飲めないの、開始前に多めに飲んでおく。今日はいつもの売り子さんはいないのか。ちょっと残念。

試合は、一進一退。なにか、まどろっこしい。前半は、スコアレスドロー。一気に決着をつけてほしい思いが強いが、今日のスタメンはサブメンバー中心。（この大事な試合に何故？とも思うが4日後に控えているJ2の試合に戦力温存の模様）サブメンバーで互角にやれているのは見応えがある。

そして、今から書くことは第三者から見ると、まったく持って意味不明なことなのだが、この試合に勝つことには、とても大きな意味がある、それは、勝ったほうが、『本物の横浜』との証であるから。（はい、今、笑った人、イエローカードね（笑））フリューゲルス時代から続く、確執に決着を付けたいと思っている人、多数。「俺たち（だけが）横浜！」と声を大にして叫びたい。横浜サポでない人にとっては、なんじゃ、それって話しだけ、皆、真剣なのさ（笑）

そして試合は後半、横浜FC、戸島が先制のゴールを決める。ゴール裏の歓声は、それは、もの凄いことに。このまま、終わってくれー。と祈ってはみたが、74分、同点ゴールを決められ、そのまま試合は延長戦へ。延長前半、痛恨のPKを与えてしまい、逆転される。横浜FCは最後の最後ま

で諦めず攻め続けた。凄いぞ、横浜FC。勝ちに行く思いが伝わってくる。

結果としては、2-1でマリノス勢に軍配。



そして、マリノスサポが叫ぶ、「俺たちが横浜、もう誰にも止められない！」唄（チャント）を聞かされる。悔しい。涙してる奴も数人。

一生懸命、応援し、もう、声が出ない。今夜は、選手もサポも、完全燃焼。

来年、待ってろよマリノス。諦めなければ負けたことにはならん、次は絶対に勝つ。リベンジを誓いながら、ゴール裏の撒収作業。この日、全てのイベントが終了した。

そして、4日後の7/15(日)には新潟戦（アウェイ）が待っている。京都、岡山に続く、日帰り遠征となるが、新潟のスタジアム飯を楽しみにドライブがてら、行って来ます！

（追記）見事、新潟戦は勝利し、6位をキープ。1位～7位の間の勝ち点差は僅か3点という接戦。我慢比べは続く。





新人奮闘記(前編)



システム開発1部 M・Y

こんにちは！
何かヤバイ食べ物の食レポでもしようかと考えていましたMです。

投稿の時期が配属と重なり「入社後3ヶ月の研修、そして現場に配属されてからの奮闘ぶり」とお題を頂いたのでそちらについて書きます。決してヤバイ食べ物の食レポ(趣味をする)をする時間がなくなったからではないです。

まず研修、こちらは勉強は勿論ついて行くため(そうしないと何やってかわからないですからね…)に頑張りましたが、それよりも、僕は元々夜勤の生活を4年以上続けていたので更なる当然な部分で「まずは普通に朝出勤、居眠りをせずに日中を過ごせる身体にする」ということを研修期間中は目標にしていました。正直マシになった今だからこそ思えますが、起きて当然と思ってもそんな根性論の通るような漫画みたいな都合が良い事にはなかなかならないです。昼夜逆転を矯正することは勉強と同じくらい大変でした。

研修の期間も限られていますし、矯正には時間が掛かるので「ひんやりグッズを使う」、「コーヒーやレッドブル、睡眠打破などを飲む」、「アロマを嗅いで直接脳を刺激して起こす」、「シャーペンで皮膚に刺す」など眠気を無くせるならと色々無理やり起こせる方法を試してみました。

最近では時差ビズも始まっていますし「フレックスを利用して夜仕事にすれば働きやすいんじゃないか？」という意見を聞いたので、「イヤイヤ！良い意見だとは思いますが昼夜逆転すると簡単には戻れなくなるぞ！」という注意喚起なお話でした。

さて現場での奮闘ですが……

現在はシステム一部の人間として大変優しいH先輩と一緒にとあるプロジェクトのテスト要員として配属されました。やる事がプログラミングとは異なるので、悲しいことに「あ！これ〇研ゼミでやった！！」ような都合よく研修が役に立ったことは特に無く、1から一般常識、現場の常識込みで色々な流れを理解するのにとても苦労しました。

今も絶賛吸収中ではありますが7月頭と比べると押し寄せる情報の量が違うのでストレスの負荷具合がだいぶ変わりました。

配属先の目の前にある高島屋に退勤して入れるか入れないかのチキンレースをしており、基本的に帰宅するのが日付が変わる日が多い面白い状況を除けば、H先輩や別会社の年下のスーパーマンに教えてもらいながらも一応タスクもこなせており、やり甲斐は感じられているので出来るかどうかはさておいて一応環境には適応しつつあるのかなと思いました。

もし疲労で身体が辛くなっても日本はありがたいことに栄養ドリンクの開発が盛んなのですし、今日もぐびっと頑張るぞ〜！


システム開発2部 U・S

3ヶ月間の研修を終えて、感じたことは大学でもっとしっかりとプログラムの学習しておけば良かったと言う後悔でした。大学では多くの言語に言われるがまま触れた為、言語ごとの違いに振り回されたりと大変でした。

研修開始から1ヶ月ほどは特に問題なく進んだのに対し、Javaの応用に入ると自分の事だけで精一杯でした。グループ研修に入ればグループリーダーを務める事になり全体を見ながら進める大変さを実感しました。初期には意識の違いにより問題が発生し、報告・連絡・相談の重要性を痛感したと同時に、しっかりと班員と話し合いを行い状況の確認をすることの大切さを知りました。また、配属先では自分で同じような事をしないように心掛けたいです。

配属先ではまだ2週間と短い期間にはなりますが、可もなく不可もなくと言った感じです。自分が何をしているかが良くわからない場面が多々あります。後に自分が何のシステムのどこを修正しているのかが分かって、この修正をしていたのかと、後から理解しているというのが現状です。経験不足によるところが多いのでこれから仕事をこなしていく過程で時間が解決してくれる問題だと感じています。仕事を自力で終わらせるようになることでチームの人の時間を取らせないことを目標にして頑張ります。

まだまだご迷惑をおかけすると思いますがよろしくお願いたします。



本紙はパシオン社員の親睦を目的にした社内報です。パシオンをご理解下さる関係者に限定配布しております。

本趣旨にもとるご利用、お取り扱いにご容赦いただきますようお願い致します。

〒221-0052
横浜市神奈川区栄町1-1
KDX横浜ビル7階

電話 045 (450) 1921
FAX 045 (450) 1922

ホームページもご覧ください
<http://www.pasion.co.jp>

発行責任者： Y・K